

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年11月1日



I. 決算

1. 決算のポイント
2. 第2四半期の業績
3. 通期の業績予想

2020年3月期 第2四半期決算のポイント

1. 業績は、車両、エンジン、産業車両を中心に増収・増益

2. 中間配当金については、前年同期から
5円増配の80円

3. 通期の業績予想については、
売上高、営業利益、税引前利益、純利益を下方修正

業績<2Q実績>

(単位:億円)

	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減	
				率
売上高	10,570	11,029	459	4.3%
営業利益	613	715	102	16.6%
税引前利益	983	1,080	97	9.8%
純利益	744	822	78	10.6%
1株当たり 純利益	239円65銭	265円02銭	25円37銭	-
1株当たり 配当金	75円	80円	5円	-
U S \$	110円	109円	▲1円	-
ユ ー ー 口	130円	121円	▲9円	-

- ・車両とエンジンの台数増および産業車両のバリューチェーンの取り組みにより増収・増益
- ・中間配当金は前年同期比5円の増配

セグメント情報<2Q実績>

上段:売上高 下段〔 〕:営業利益

(単位:億円)

		19/3期	20/3期	増減	率
		2Q累計	2Q累計		
自動車	車両	350	463	113	32.3%
	エンジン	493	617	124	25.1%
	カーエアコン用コンプレッサー	1,737	1,693	▲44	▲2.5%
	電子機器・鋳造品ほか	354	378	24	6.8%
	計	2,935 〔37〕	3,152 〔128〕	217 〔91〕	7.4%
産業車両		6,977 〔520〕	7,272 〔542〕	295 〔22〕	4.2%
繊維機械		360 〔30〕	302 〔10〕	▲58 〔▲20〕	▲16.2%
その他		296 〔26〕	302 〔35〕	6 〔9〕	1.9%
合計		10,570 〔613〕	11,029 〔715〕	459 〔102〕	4.3%

販売台数

(単位:千台)

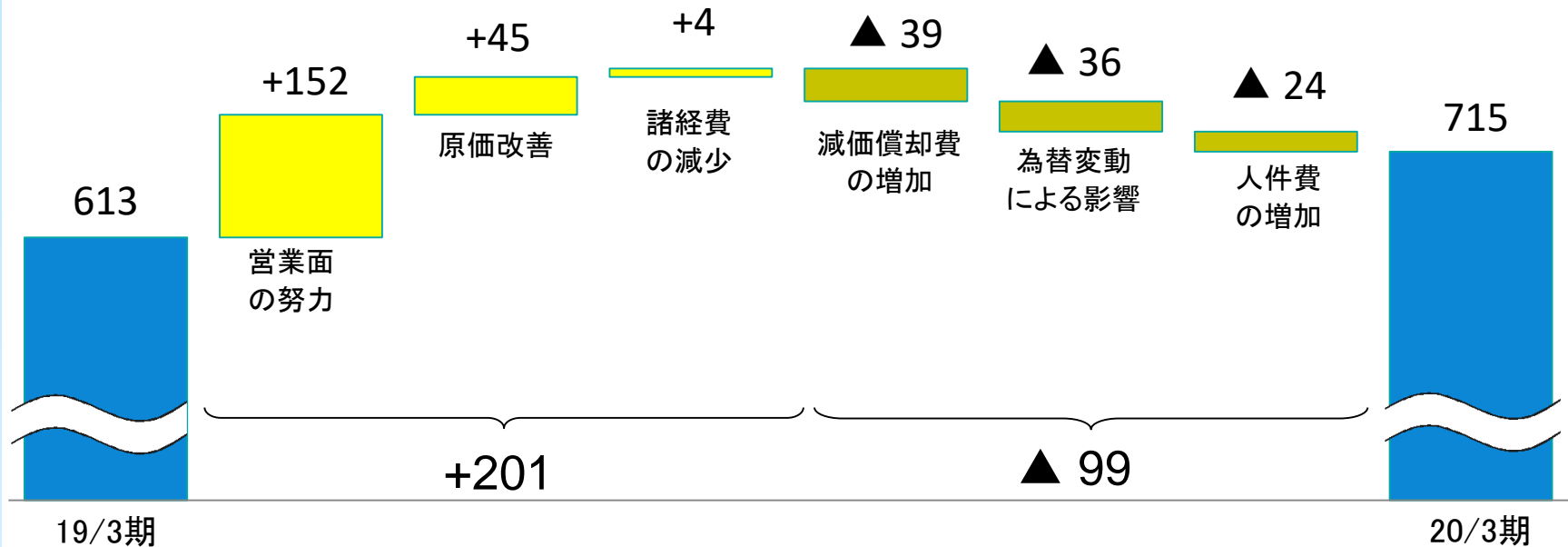
		19/3期	20/3期	増減
		2Q累計	2Q累計	
RAV4 ヴィッツ		97	165	68
		50	-	▲50
車両計		147	165	18
ディーゼル ガソリン		175	198	23
		62	209	147
エンジン計		237	407	170
カーエアコン用 コンプレッサー		万台 1,667	万台 1,620	万台 ▲47
産業車両		144	144	▲0
エアジェット 織機		4.1	3.5	▲0.6

- 車両 : 新型RAV4の増加により売上高は増加
- エンジン : 新型A25AおよびM20Aガソリンや、GD型ディーゼルの増加により売上高は増加
- コンプレッサー : 日本で増加したが、欧州や北米、中国を含む新興国で減少し売上高は減少
- 産業車両 : フォークリフト台数は横ばいだが、バリューチェーン全体での取り組みにより売上高は増加

営業利益の増減要因 <2Q実績>

営業利益 +102億円 (613 → 715億円)

(単位:億円)



・減価償却費の増加や、為替変動によるマイナスの影響などがあったが、営業面の努力と原価改善で増益

業績<2Q実績>

(単位:億円)

	19/3期 2Q累計	20/3期 2Q累計	増減	
				率
設備投資	583	494	▲89	▲15.3%
減価償却費	409	448	39	9.6%

- ・設備投資は産業車両セグメントが増加したが、車両とエンジンを中心に自動車セグメントが減少し、全体としては減少

業績<2Q実績>

(単位:億円)

	19/3期 期末	20/3期 2Q	増減	
				率
資産合計	52,611	54,646	2,035	3.9%
資本合計	25,619	27,135	1,516	5.9%
親会社所有者 帰属持分比率	47.1%	48.2%	-	-
連結子会社	254社	259社	5社	-

・投資有価証券の時価評価の増加に伴い、資産合計は増加

業績＜通期予想＞

(単位:億円)

	19/3期	20/3期	増減		前回発表
				率	
売上高	22,149	22,200	51	0.2%	23,000
営業利益	1,346	1,350	4	0.2%	1,450
税引前利益	2,022	2,000	▲22	▲1.1%	2,080
純利益	1,527	1,510	▲17	▲1.1%	1,570
1株当たり 純利益	491円97銭	486円34銭	▲5円63銭	-	505円66銭
1株当たり 配当金	155円	160円	5円	-	160円
U S \$	111円	107円	▲4円	-	110円
ユ ー ー 口	128円	118円	▲10円	-	125円

セグメント情報 売上高・営業利益

<通期予想>

上段:売上高 下段〔 〕:営業利益

(単位:億円)

	19/3期	20/3期	増減		前回発表
				率	
車両	824	850	26	3.1%	760
エンジン	1,084	1,230	146	13.4%	1,300
カーエアコン用コンプレッサー	3,462	3,380	▲82	▲2.4%	3,500
電子機器・鋳造品ほか	736	730	▲6	▲0.8%	730
自動車計	6,107 〔68〕	6,190	83	1.4%	6,290
産業車両	14,666 〔1,146〕	14,770	104	0.7%	15,490
繊維機械	763 〔73〕	640	▲123	▲16.2%	620
その他	612 〔59〕	600	▲12	▲2.0%	600
合計	22,149 〔1,346〕	22,200 〔1,350〕	51 〔4〕	0.2%	23,000 〔1,450〕

セグメント情報 販売台数 <通期予想>

販売台数

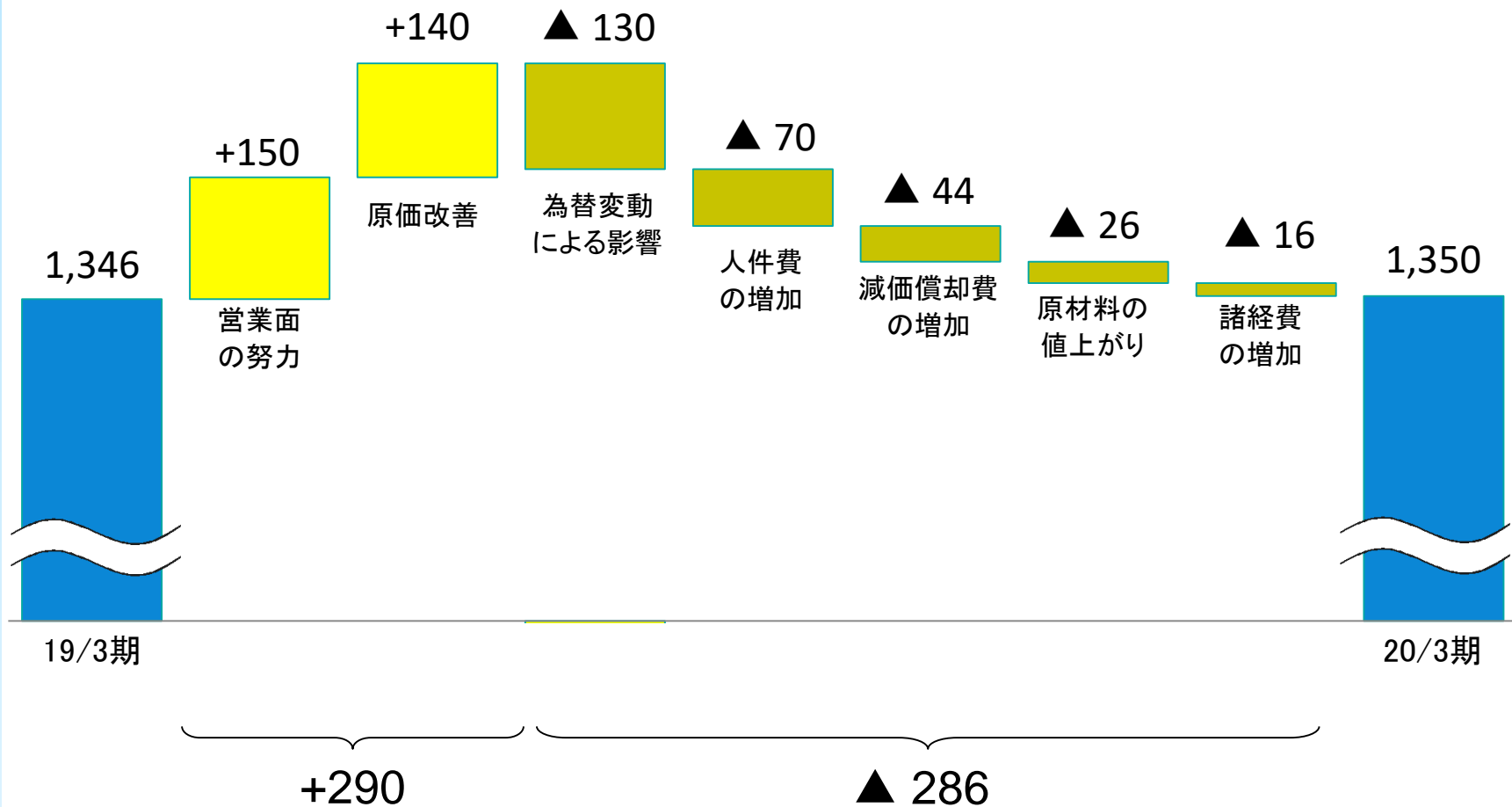
(単位:千台)

		19/3期	20/3期	増減	前回発表
R A V 4 ヴ ィ ッ ツ		235	310	75	275
		50	-	▲50	-
車両 計		285	310	25	275
デ ィ ー ゼ ル ガ ソ リ ン		375	394	19	429
		218	419	201	399
エンジン 計		593	813	220	828
カーエアコン用 コンプレッサー		万台 3,298	万台 3,300	万台 2	万台 3,400
産 業 車 両		300	298	▲2	306
エ ア ジ ェ ッ ト 織 機		9.0	6.3	▲2.7	5.7

営業利益の増減要因 <通期予想>

営業利益 +4億円 (1,346 → 1,350億円)

(単位:億円)



業績＜通期予想＞

(単位:億円)

	19/3期	20/3期	増減	
				率
設備投資	1,137	1,050	▲87	▲7.7%
減価償却費	856	900	44	5.1%

Ⅱ. 事業の取り組み

産業車両

自動車

- ・コンプレッサー
- ・車両
- ・エンジン
- ・エレクトロニクス

産業車両

1. 事業構成

物流現場における機器やシステムをトータルでご提供

物流ソリューション



ユニット式自動倉庫



ソーター



ソフトウェア



無人搬送車 (AGV)



販売金融


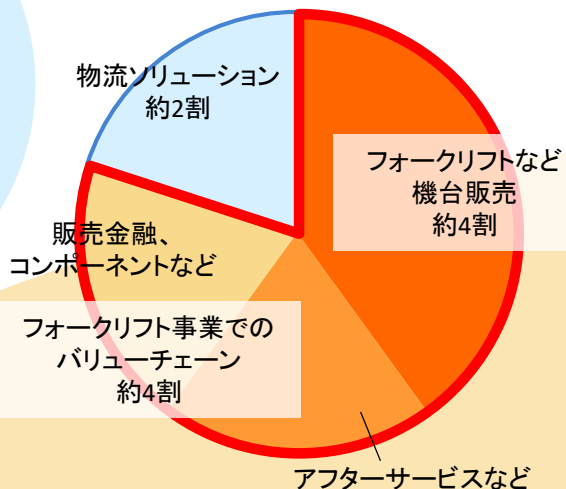


アタッチメントなど
コンポーネント


バリューチェーン

産業車両セグメントの 売上高構成イメージ

フォークリフト事業が約8割



アフターサービス
補給部品



フリートマネジメント
ウェアハウスマネジメント
テレマティクス

フォークリフトなどの機台



エンジンフォークリフト



電動フォークリフト



リーチタイプ
電動フォークリフト



ローリフト



無人フォークリフト

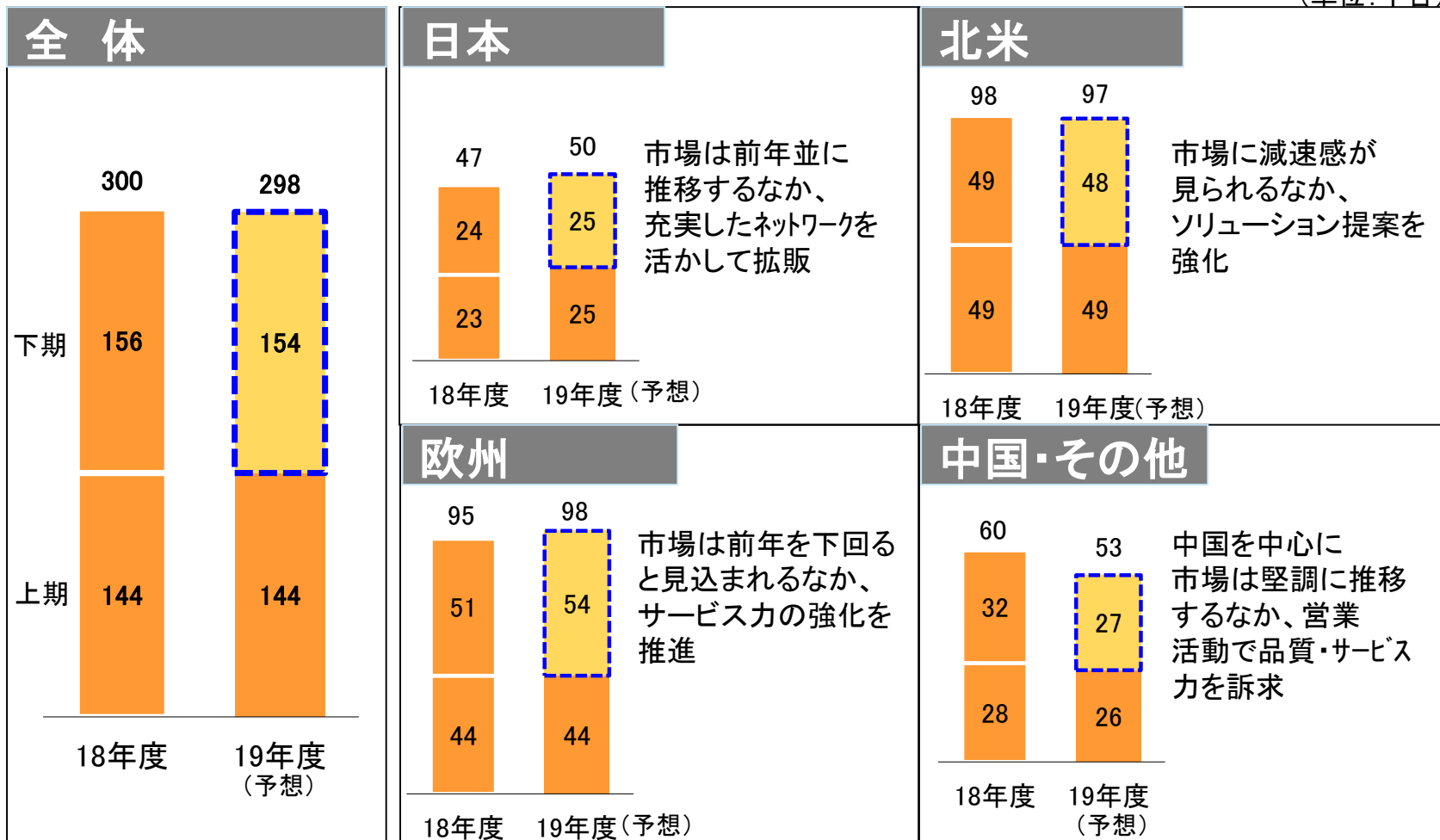
産業車両

2. 足元の販売状況

足元の販売は景気の不透明感などの影響を受け横ばい

当社は、高い商品力や充実したアフターサービスなどを強みに拡販に取り組む

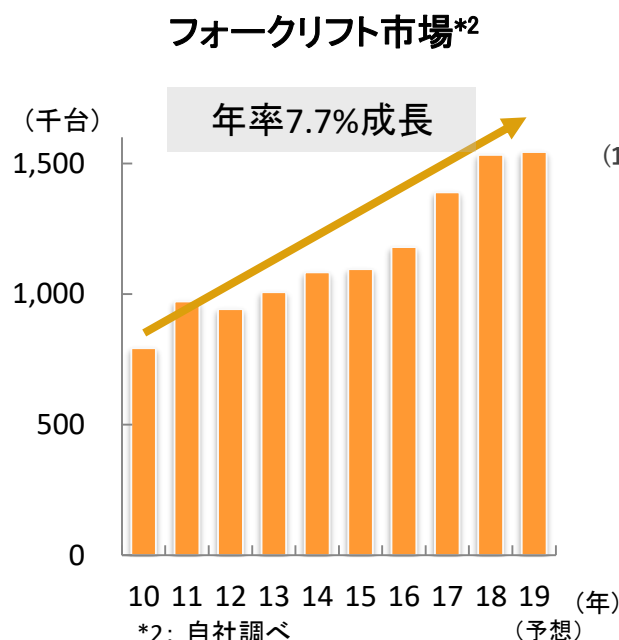
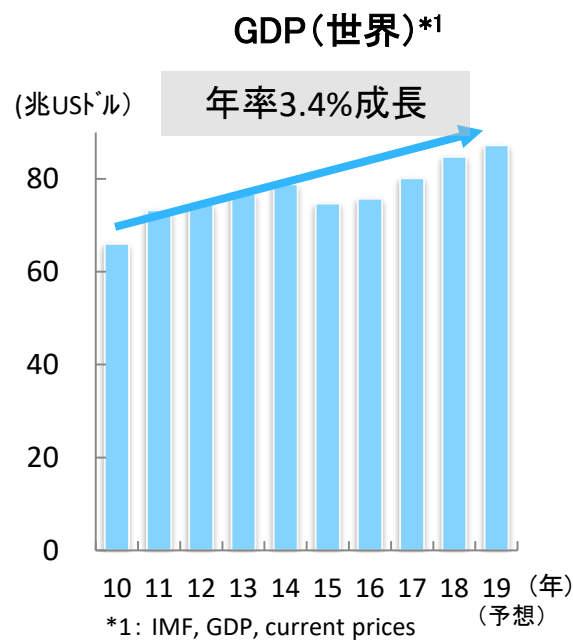
(単位:千台)



産業車両

3. フォークリフト市場の状況

中長期的にはマクロ経済成長を上回る根強い需要を想定

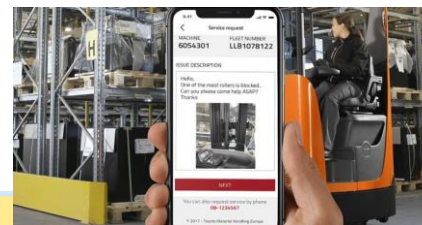


- “先進国での労働力不足” “新興国での人件費高騰”
⇒ 人による荷役・搬送の機械化ニーズなどが需要を押し上げ
- 小口荷物の増加に伴い、フォークリフト作業の機会も増加

産業車両

4. フォークリフト事業の成長に向けた取り組み

テレマティクスによる 物流効率化のサポート



稼働状況の管理

- ・ 機台ごとの稼働状況の見える化により、
物流現場全体での生産性を向上

安全・環境面の管理

- ・ 機台の衝突や運転操作の履歴把握により、
安全・省エネ運転を支援

迅速なメンテナンス

- ・ モバイル端末によるトラブル情報の把握により、
メンテナンス対応を迅速化

- ・ 欧米のスーパーマーケットチェーンや物流事業者、
日本の食品卸会社などが導入中



産業車両

4. フォークリフト事業の成長に向けた取り組み

テレマティクスによる サービスのさらなる高度化

- **グローバルでのプラットフォーム統一**により、
当社ネットワーク全体で高品質なサービスを提供
- 多様な物流現場で蓄積したデータを活かし、
業界初となる予知保全システムを構築中
⇒AI活用などによる、**使用状況**に応じた
最適時期での部品交換



産業車両

4. フォークリフト事業の成長に向けた取り組み

屋外でもフォークリフト自動運転を可能に

屋外での課題と当社の対策

- ・荷物の位置や角度が不統一
⇒ **画像認識・AI技術を活用**
- ・周囲環境により有効なセンサーが異なる
⇒ **複数の位置検出装置を組み合わせ**



農業分野などでの物流効率化に貢献

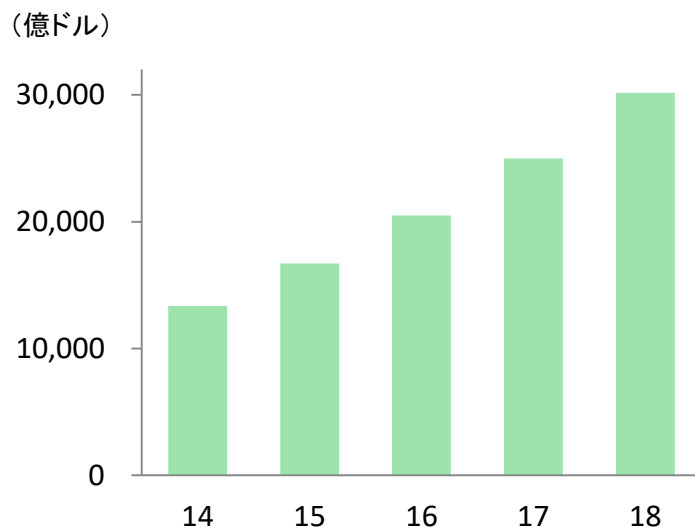
- ・ 物流ソリューション事業と連携し、早期実現化をめざす

産業車両

5. 物流ソリューション市場の状況

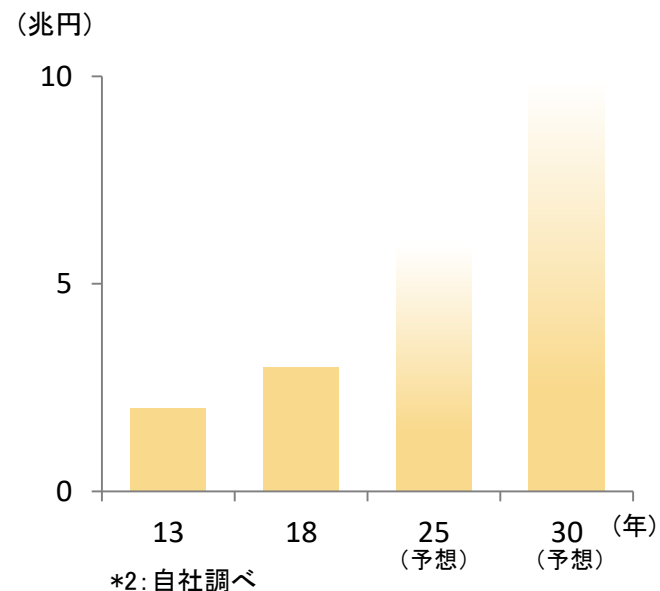
eコマース市場の伸長などを背景に、
物流ソリューション市場の拡大が見込まれる

世界のeコマース市場*1



*1: 総務省「IoT時代におけるICT産業の構造分析とICTIによる経済成長への多面的貢献の検証に関する調査研究」(平成28年)

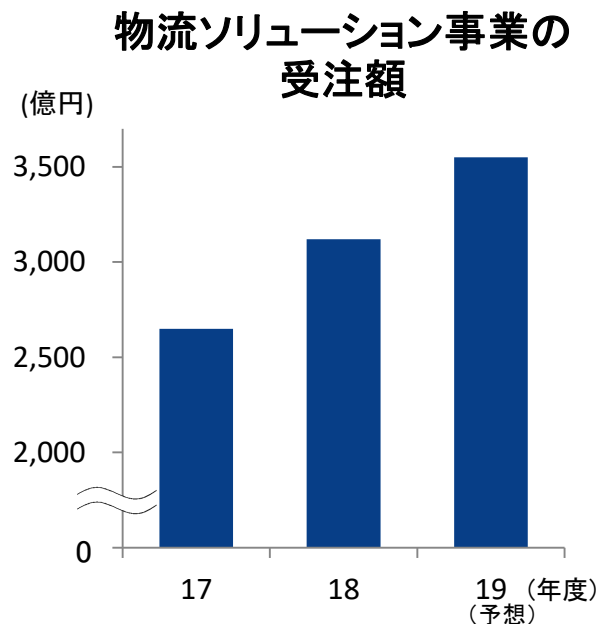
物流ソリューション市場*2



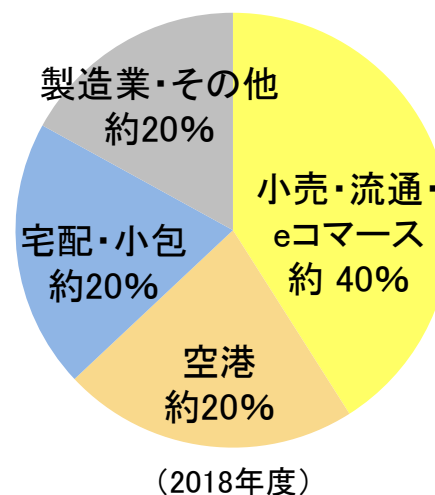
産業車両

5. 物流ソリューション市場の状況

市場の拡大を受け、当社物流ソリューション事業も堅調に推移



物流ソリューション事業の業種別売上高



幅広い業種にバランス良く展開

- 足元では売上げの時期ずれが業績に影響
- **受注額は、市場の拡大を確実に捉え好調に推移**

産業車両

6. 物流ソリューション事業の成長に向けた取り組み

バスティアン社、ファンダランデ社、豊田自動織機それぞれの強みを活かし、フォークリフト事業と連携した事業拡大をはかる

2018年度

2019年度

各社個別戦略推進

VANDERLANDE

Bastian
SOLUTIONS

TOYOTA

- ・ 3社の強みを考慮した
役割分担（地域、業種・規模）の
明確化による事業活動の
効率化

- ・ 各社が担当分野で積極的に
事業展開
- ・ 3社が連携し、シナジー創出
- ・ フォークリフト事業との連携
- ・ システム標準化などを通じた
収益改善

産業車両

6. 物流ソリューション事業の成長に向けた取り組み 各社間での協業が、欧米をはじめ日本でも進行

事例① 物流ソリューション事業と フォークリフト事業の協業

欧州の大手流通A社の
物流センターのシステム受注

TMHE*製の無人フォークリフトを
活用し、システム全体をファンダ
ランデ社が構築

稼動: 2019年7月



無人フォークリフト
(TMHE)



パレタイズロボット
(ファンダランデ社)

事例② バスティアン社 と当社 物流ソリューション部門の協業

北米の大手日用品卸売B社の
物流センター(東京)のシステム受注

バスティアン社の機器制御ソフトを
活用し、システム全体を当社が構築

稼動: 2020年10月予定



機器制御ソフト
(バスティアン社)

*: フォークリフト事業の欧州拠点

北米最大の産業車両展示会 ProMAT 2019 に
フォークリフト/物流ソリューション 両事業が共同で出展(2019年4月)



- トヨタ、レイモンド、タイリフト、バスティアン、ファンダランデの**5ブランド**が初めて**共同で出展**
- あらゆるお客様の物流課題にお応えする**総合力**をアピール

Ⅱ．事業の取り組み

産業車両

自動車

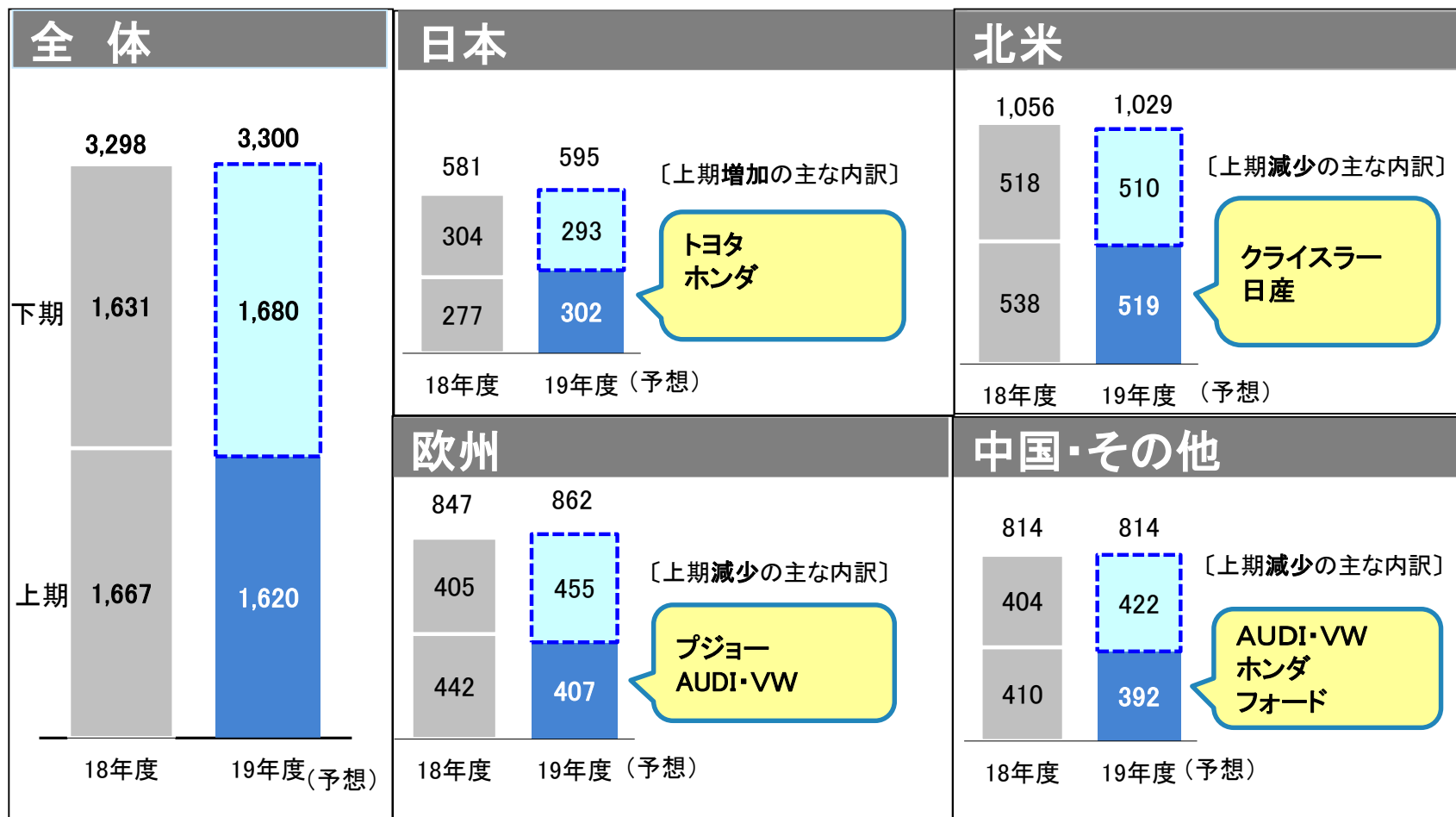
- ・コンプレッサー
- ・車両
- ・エンジン
- ・エレクトロニクス

コンプレッサー

1. 足元の販売見通し

受注は堅調なもの、自動車市場低迷により
足元の販売は横ばい

(単位:万台)



2. 電動車市場拡大に伴う当社の対応

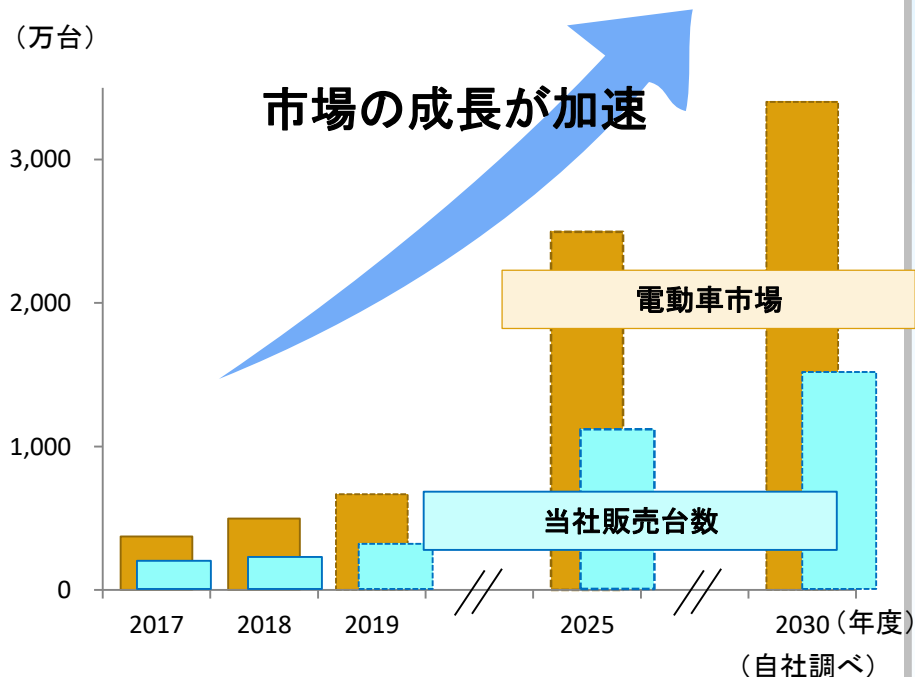
HV・PHV・EV・FCVなどの
電動車の増加により、
電動タイプの需要が拡大

当社の対応

【開発】 多様化するニーズに対応した商品の開発およびサポート力の強化

【生産】 電動タイプのニーズがある市場での生産開始、量変動への柔軟な対応

電動車市場と当社電動タイプの販売台数



コンプレッサー

3. 当社の電動タイプの受注拡大

以前 (17年度～18年度上期)

現状 (18年度下期～19年度上期)

カー
メー
カー

徹底した価格重視



性能、品質、サポート力
重視への回帰

当
社
対
応

- ・性能面の一層の向上
- ・豊富なリソースを活かし、カーメーカーの多様なニーズにきめ細かく対応
- ・カーメーカーへのサポート力の強化

過去1年で電動タイプの受注が増加

新規 4車種
20万台



新規 9車種
100万台

コンプレッサー

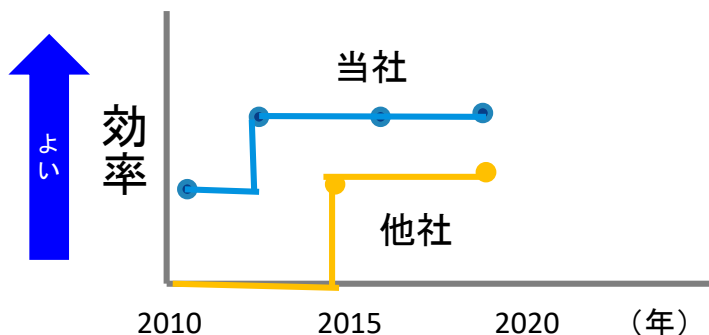
4. 電動タイプにおける開発面の取り組み

1) 性能面の一層の向上

独自の評価・解析手法やノウハウにより性能面で他社と差別化

●高効率化

⇒走行距離伸張



10%以上の優位性
今後さらなる高効率化を実現

●低電磁ノイズ化

⇒充電時の家電への
電波障害防止

●静粛性向上

⇒EVでの低騒音化



電波暗室を利用した解析



静粛性評価

コンプレッサー

4. 電動タイプにおける開発面の取り組み

2) 多様なニーズへの対応

- ・幅広い製品開発の経験を活かし
電子機器冷却に必要な
大容量化に対応

	空調用 (小型車 ~ 大型車)	空調用 + 電子機器の冷却
TICO		大容量にも対応
競合他社		

- ・低電磁ノイズの技術を活かし
急速充電に対応
- ・モーター小型化の技術を応用し、
マイルドハイブリッド向け商品を開発

3) カーメーカーへのサポート力の強化

- ・多様な騒音・振動に対する
解決策を提案
- ・現地でのサポート体制を強化

【サポート事例】

回転数上昇時の音色問題

- ・当社のシミュレーション技術
で最適な回転数の制御方法を解析
- ・カーメーカー施設にて当社技術者が
実車で提案実施

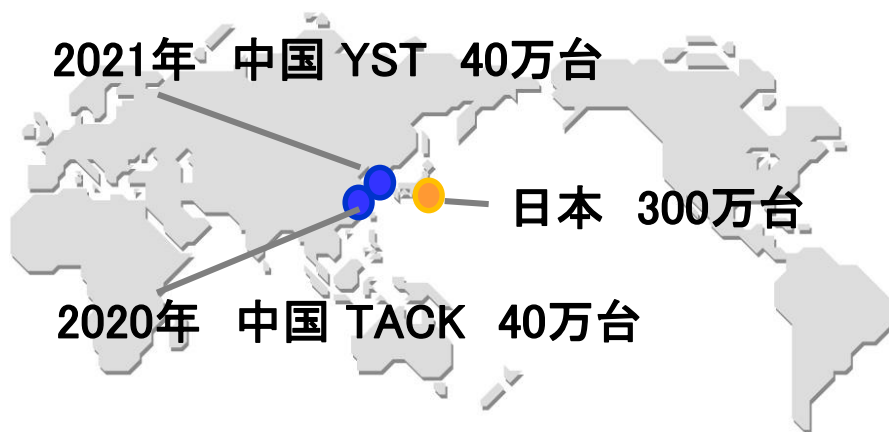
即時解決



コンプレッサー

5. 電動タイプにおける生産面の取り組み

中国での電動タイプの生産開始



日本のマザー工場で作りこんだラインをベースとし、生産ノウハウを活用

中国と日本での部品調達の最適化を推進

日本での生産効率の向上

大量生産ラインと少量生産ラインのベストミックスで量変動に対応

大量生産ライン

メインの製品を
工程分割により生産

少量生産ライン
(セルライン)

少量製品を工程集約
により生産

各製品の数量にあったラインの選択により生産効率を向上

コンプレッサー

6. コア技術を活用した事業領域の拡大

1) 電動化・自動化でニーズの高まる 部品冷却用コンプレッサーの開発

- ・カーエアコン用での高効率、信頼性の強みを活かし受注済み



2) Well-to-Wheelで優位性のある FC事業の強化

- ・圧縮技術を応用して走行系部品へ領域を拡大
- ・MIRAIで培った実績をもとに、次世代型を開発中



酸素供給
エアコンプレッサー



水素循環ポンプ

コンプレッサー

7. 収益向上の取り組み

性能面に加え、価格競争力を強化



売上げの拡大

- ・商品力での一層の差別化
- ・商品力・サポート力を活かした世界のカーメーカーへの拡販
- ・電動車市場拡大をとらえた高付加価値な電動タイプの拡販
- ・FCV向け商品の数量拡大

コストダウン

- ・ダイカスト鑄造からの幅広い工程での原価改善活動の深化
- ・高精度・高速加工、自動化などの生産技術力のさらなる向上
- ・効率的な設備投資による生産能力の最適化
- ・マザー工場のノウハウ活用による海外拠点の生産性向上

車両

SUVにおける世界販売台数 No.1

製品企画

デザイン

生産



RAV4



採用された当社デザイン案

設計

アッパーボディーの開発を含め
幅広い領域を当社が担当

生産技術

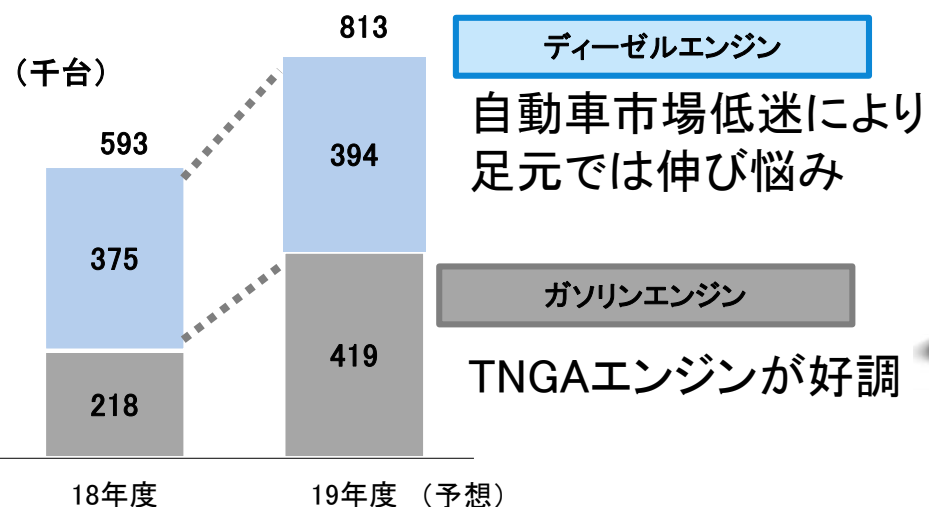
評価

- ・企画・開発から生産まで工場一体で、モノづくり力をさらに強化
- ・スモールSUVのリーダーをめざす

エンジン

ディーゼル・ガソリン両面で事業拡大をめざす

エンジン販売台数



新型車 トヨタ グランエースに 当社GD型ディーゼルエンジン搭載



GD型ディーゼルエンジン

トヨタからディーゼルエンジンの事業集約で
開発・生産効率を一層向上

電動車の電源活用 ①



直流

台風による千葉県内停電での活用

当社製
DC-ACインバーター搭載



交流



個人宅で家電製品へ電力供給



当社所有 MIRAI 7台を被災地へ派遣

電動車の電源活用 ②

DC-ACインバーター結合器の開発

複数のDC-ACインバーターを連結し、
停電時に配水ポンプやエレベーターなど大電力機器を稼動



DC-ACインバーター結合器



配水ポンプ稼動の実証実験

関係自治体と共同で実証実験に取り組み早期の商品化をめざす

トピックス

「プラチナくるみん」認定

厚生労働省が子育て支援の取り組みを評価

当社を最高位の「プラチナくるみん」企業に認定



認定のポイント

◇制度の充実

- ・終日在宅勤務制度
- ・1歳未満の子を養育しながら働く社員への保育費用補助
- ・不妊治療のための公休

◇男性社員の育児参画

- ・対象者の約半数が出産および育児のための休業制度を利用



育児休業前のセミナー

トピックス

第46回東京モーターショーに出展 (10月24日～11月4日)

自動車関連事業の製品を「圧縮技術」と「電動車の電源活用」に分けて展示

1. 圧縮技術



- ・カーエアコン用 電動コンプレッサー
- ・FCV用 酸素供給エアコンプレッサー
- ・FCV用 水素循環ポンプ
- ・GD型ディーゼルエンジン
および ターボチャージャー
- ・電動過給器 など

2. 電動車の電源活用



- ・DC-ACインバーター および 結合器
- ・EV・PHV充放電スタンド(V2H)
- ・外部給電器(V2L)
- ・車載充電器 など

将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。